

ハイボン50ファイブ

JIS K 5659
鋼構造物用耐候性塗料
A種 上塗り塗料 3級

特 長

- ① JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 A種 上塗り塗料 3級に合格しています(シルバーおよびつや調整品を除く)。
- ② 塗料用シンナーで希釈でき、塗装作業性にすぐれます。
- ③ 耐薬品性(耐酸・耐アルカリ)・耐水性、耐塩水性にすぐれています。
- ④ 耐候性がすぐれています。
- ⑤ 塗料に鉛・クロムを配合しておりません。

塗料性状

| | | | |
|------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 色 相 | 各色 | | |
| 密 度 (23℃) | 1.21 (ホワイト混合塗料) | 1.25 (ホワイト塗料液) | 0.99 (硬化剤) |
| 加熱残分 (%) | 67 (ホワイト混合塗料) | 68 (ホワイト塗料液) | 61 (硬化剤) |
| 引火点 | 塗料液 : 45℃ | | 硬化剤 : 45℃ |
| 消防法 表 示 | 化 学 名 | 合成樹脂エナメル塗料 | 合成樹脂クリヤー塗料 |
| | 危険物区分 | 指定可燃物・液体 | 第4類 第2石油類(非水溶性) |
| | 危険物等級 | Ⅰ(火気厳禁) | Ⅲ(火気厳禁) |
| 有機溶剤区分 | 第2種 | | 第3種 |
| 有害物表示 | — | | ポリイソシアネート |

塗装仕様例

| | 塗装工程 | 一般塗料名 | 製 品 名 | 使 用 量 (kg/m ² /回) | 塗り回数 | 塗り重ね乾燥時間 (23℃) | シンナー名 (希釈率) | 標準膜厚 (μm/回) |
|----|-------|--|-----------------|---------------------------------|------|-------------------|----------------------|----------------|
| 現場 | 素地調整 | 発錆部については ISO St3 まで、活膜部についてはチョーキング・油脂・各種塩類などの付着物をサンドペーパーがけなどの方法で、除去清掃してください。 | | | | | | |
| | 下塗り | 弱溶剤形 変性エポキシ樹脂下塗り塗料 | ハイボン 20 ファイン | 0.20 (はけ・ローラー) | 1~2 | 16 時間以上 10 日以内 | 塗料用シンナー A (0~10%) | 50 |
| | 中塗り※1 | 弱溶剤形 ポリウレタン樹脂中塗り塗料 | ハイボン 30 ファイン中塗り | 0.14 (はけ・ローラー) | 1 | 3 時間以上 10 日以内 | 塗料用シンナー A (0~10%) | 30 |
| | 上塗り | 弱溶剤形 ポリウレタン樹脂上塗り塗料 | ハイボン 50 ファイン | 0.12 (はけ・ローラー) | 1 | — | 塗料用シンナー A (0~10%) | 30 |

※1:中塗りにはハイボン30ファイン中塗り(弱溶剤形エポキシ樹脂中塗り塗料)もご使用できます。詳細は製品使用説明書をご参照ください。

注:エアレス塗装では、強溶剤形ポリウレタン樹脂塗料と比較すると、つやが落ちます。

注:上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

注:塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間を守ってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

用 途

旧塗膜適性と防食性が要求される個所に最適です。

容 量

16kg セット(塗料液:硬化剤 = 14kg : 2kg)

4kg セット(塗料液:硬化剤 = 3.5kg : 0.5kg)

ハイポン50ファイブ

使用方法

- 下地調整 : 被塗面に付着したダスト・海塩粒子・水分・油、その他異質物を清掃し、清浄ケレンしてください。
混 合 : 2液形のため「塗料液／硬化剤＝7／1(重量比)」に混合し、十分にかくはんしてください。
ポットライフ : 6時間(23℃) 8時間(5℃)
希釈剤 : 塗料用シンナーA

| 塗装方法 | はけ・ローラー塗り | エアレススプレー塗り |
|-----------|------------|------------|
| 希釈率 | 0～10% | 0～10% |
| 使用量 | 0.12kg／㎡／回 | 0.14kg／㎡／回 |
| 膜 厚(ドライ) | 30μm | 30μm |
| 膜 厚(ウェット) | 55μm | 55μm |

※上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
※上記使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように
使用量・塗り回数を調整してください。

エアレス条件 : 一次圧 0.4～0.5MPa 二次圧 12～15MPa チップ No.163－513、515 など

| 乾燥時間 | 5℃ | 23℃ | 30℃ |
|--------|--------|--------|--------|
| 指触乾燥 | 2時間 | 1時間 | 30分 |
| 半硬化乾燥 | 2時間 | 1時間 | 30分 |
| 塗り重ね乾燥 | 24時間以上 | 16時間以上 | 16時間以上 |

※乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

使用上のご注意

1. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
2. さびは、ワイヤブラシ・サンドペーパーなどで入念に除去し、膨れ・割れの発生にも注意し、十分なケレンを行ってください。
3. つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
4. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通しで塗装してください。
5. 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
6. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
7. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
8. 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
9. 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
10. 異なる色相を塗り重ねる場合(例:1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など)2回目の上塗りが1回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色(ブリードにより)する場合がありますのでご注意ください。
11. 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
12. 水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
13. 硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。
14. 塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
15. 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合(高湿度、結露、降雨など)、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
16. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこなっておそれがあります。
17. 内部塗り替えにおいて旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、研磨ずりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
18. 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
19. 素地の乾燥は十分に行ってください。
20. カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
21. 塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
22. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
23. 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
24. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行之、火気厳禁にしてください。
25. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
26. 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
27. 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合があるため、事前に試験施工塗り板等でご確認ください。
28. 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、弱溶剤タイプのビュアライドUVプロテクトクリヤーシリーズ(MK/DF/SI)を上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
29. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
30. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
31. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
32. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
33. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
34. はけなどの塗装用具の洗いは、ラッカーシンナーを使用してください。
35. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
36. 可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビソル銅板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装は避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
37. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
38. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
39. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
40. 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
41. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

- 本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご参照ください。
■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

- 本カタログの内容については予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
●本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
●©Copyright 2025 NIPPON PAINT Co.,LTD. All rights reserved.
●日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

日本ペイント株式会社

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 北海道支店 ☎011-370-3101 | 近畿支店 ☎06-6455-9608 |
| 東北支店 ☎022-232-6711 | 中国支店 ☎082-281-2180 |
| 関東支店 ☎03-5479-3614 | 四国支店 ☎0877-56-2346 |
| 北関東信越支店 ☎03-5479-3614 | 九州支店 ☎092-751-9861 |
| 中部支店 ☎052-461-1960 | |

カタログNo.
NP-D172

TY251112H
2025年11月現在